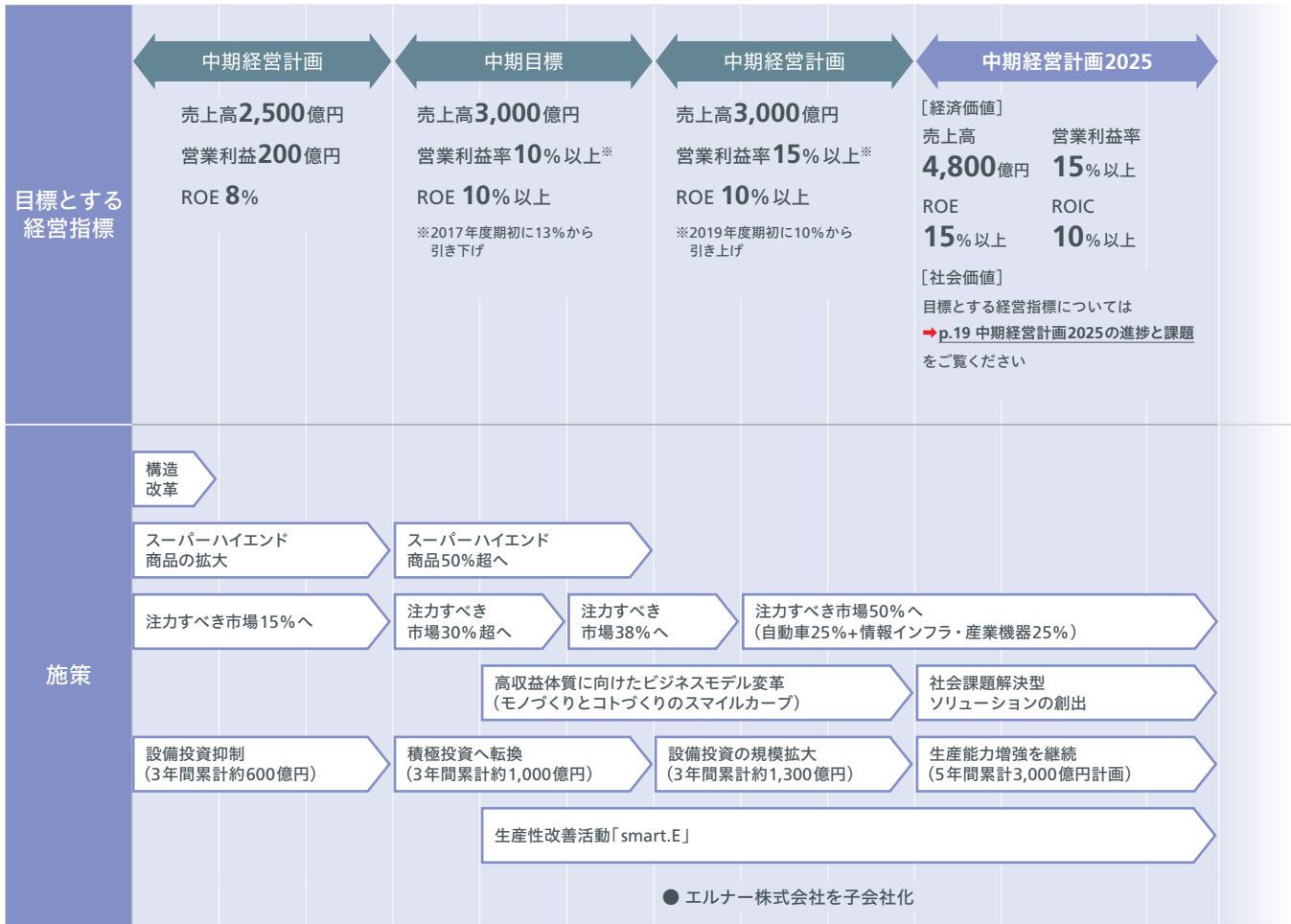
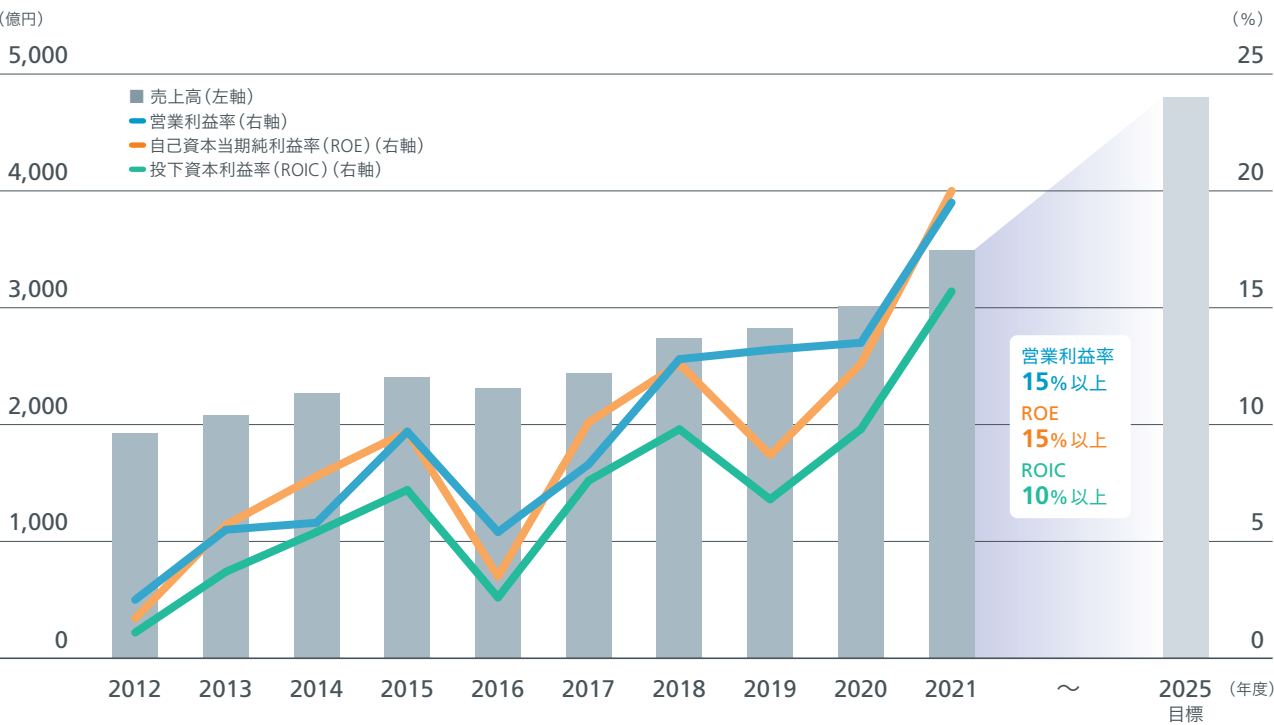


中期経営計画2025（2021～2025年度）

これまでの中期経営計画の振り返り



中期経営計画2025の進捗と課題

前中期経営計画(2018～2020年度)においては、持続的成長の実現を目指して、需要変動の影響を受けにくい事業構造への進化に向けた取り組みを進めました。中でも、安定的な成長が見込める自動車市場、情報インフラ・産業機器市場を「注力すべき市場」とし、特にこの市場向けの売上を増加させていくことを中心とした戦略を立案・遂行しました。最終年度であった2020年度には売上高3,009億円、ROE12.6%と目標を達成し、営業利益率は目標とした15%には届かなかったものの大幅に改善され、13.5%となりました。

この結果を受けた中期経営計画2025は、「注力すべき市場」で売上伸長を図る路線は踏襲しつつ、経済価値と社会価値を両輪とした企業価値向上を目指しています。経済価値においては、売上高、営業利益率、ROE、ROICを経営指標に設定しました。社会価値においては、GHG排出量、廃棄物、水使用量、職場の安全、ダイバーシティなどに関連した経営指標を設定しています。また、5年間で3,000億円の設備投資を計画しており、爆発的な需要拡大に備えた生産能力増強と同時に、環境対策・IT整備に向けた設備投資も

実施し、経済価値のみならず社会価値の向上も進めていく考えです。

計画初年度であった2021年度は、市場環境が好調に推移したこともあり、営業利益率とROE、ROICは目標を達成しました。市況に関わらず、安定的に経済価値に関する経営指標を達成できるよう、今後も事業活動を行っていきます。また、「注力すべき市場」に対する売上は順調に拡大し、その売上構成比も46%に達しました。引き続き、電装化が加速する自動車や情報インフラ・産業機器をターゲットに、目標である50%を目指していきます。

一方で、社会価値に関連する経営指標のうち、廃棄物、傷病率・度数率、ワークエンゲージメントが未達となりました。また、COP26(第26回気候変動枠組条約締約国会議)で1.5℃目標が合意されたことを受け、GHG排出量に関しては、目標を上方修正しています。その他、社会に関連する経営指標の中でもダイバーシティに関する項目として、女性管理職比率を新たに設定しました。2030年度10%以上の達成を目指していきます。

		2025年度目標	2021年度実績	2022年度予想
経済価値	売上高	4,800 億円	3,496 億円	3,850 億円
	営業利益率	15% 以上	19.5%	18.2%
	ROE	15% 以上	20.0%	—
	ROIC	10% 以上	15.7%	—

		2025年度目標	2021年度実績	2022年度目標
E	GHG排出量 ※絶対量、2020年度比	2030年度 42% 削減 ※2022年度期初に25%から引き上げ	5.2% 削減	8.4% 削減
	廃棄物 水使用量 ※原単位(販売数量)、2020年度比	2025年度 10% 削減	■廃棄物発生量 12.8% 増加 ■水使用量 2.8% 削減	■廃棄物発生量 4.0% 削減 ■水使用量 4.0% 削減
	安心安全な職場 拠点機能最適化	■傷病率<0.016 ■度数率<0.08	■傷病率<0.021 ■度数率<0.10	■傷病率<0.016 ■度数率<0.08
	S 働き方改革 ダイバーシティ	■ワークエンゲージメント 2.5 以上 ■新卒女性採用率 30% 以上 ■女性管理職比率 2030年度 10% 以上 ※2022年度期初に新設	■ワークエンゲージメント 2.25 ■新卒女性採用率 38% ※2022年4月1日時点 ■女性管理職比率 3.7% ※2022年4月1日時点	■ワークエンゲージメント 2.5 以上 ■新卒女性採用率 30% 以上 ■女性管理職比率 —